

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市黒松児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 25,181人 (前年度比 97.5%) 平成29年度 25,833人 平成28年度 23,712人 平成27年度 22,873人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 32,241千円 (27,140千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート, 児童館協力者会議, 児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II	施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III	施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV	サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V	施設固有の基準	児童クラブにおいては、クラブ通信を毎月発行し、育成支援の内容や子どもの様子、連絡事項等を伝えるほか、毎月の緊急メールテスト配信の際にお知らせ等を掲載するなど、家庭に向けた丁寧な情報提供を行っている。また、個人面談の期間を設けるなど、相互に子どもの様子を伝え合える環境づくりに努めている。保護者懇談会ではテーマを設けたグループワークを行い、保護者同士の交流や情報交換を図りながら、子育てについて考える機会を設けるなど、家庭と連携した育成支援に取り組んでいる。また、年1回放課後子ども教室と遊びの共催行事を実施し交流を図っている。	19/19

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>平成30年度は、「世代間交流の推進」、「地域との連携による事業展開」、「子育て支援の充実」を重点項目として事業運営を行いました。</p> <p>黒松市民センター共催の「黒松市民センター・黒松児童館まつり」は、児童館での遊びや活動の発表を通じて児童健全育成の機会となり、また、町内会、市民センター利用団体、黒松子育て支援クラブ、黒松寿会(老人クラブ)、黒松婦人の会、八乙女中学校や東北福祉大学のボランティア、児童クラブ保護者等の方々の交流の場となりました。</p> <p>また、八乙女中学校美術部の「おまつり看板作り」、同校ボランティア参加による「ヒーリングカフェ」、卓球部による実技指導、総合伝統文化部のダンス公演、夏休みと冬休みに実施した「ジュニアリーダーと遊ぼう」などの行事では、中学生と小学生や乳幼児親子との交流が深められ、中学生自身も達成感を抱く機会となりました。</p> <p>幼児向け事業では、「くまっちょー0(0歳児親子)」、「くまっちょー0サロン(同)」、「くまっちょー1(1歳児親子)」、「くまっちょーの宝箱(乳幼児親子)」、「くまっちょークラブ(満2～3歳児親子)」、「くまっちょースペシャル」など、子どもの発育・発達に合わせた定例行事を実施して、乳幼児親子同士が気軽に利用し交流できる場を提供するとともに、区役所家庭健康課や長命ヶ丘子育て支援センターの協力のもと、育児不安解消のための講話や育児相談を内容に盛り込み子育て支援の事業の充実を図りました。</p> <p>児童クラブでは、「KYT活動」、「110番の家めぐり」等を通じ児童に危険回避の意識づけを行いました。また、集会の際の「振り返り」で、子ども同士で思いやりの気持ちを共有するための時間を設けるなど、児童の気持ちに配慮した支援に努めました。</p> <p>以上のことから、今年度も目標をほぼ達成することができたものと総括しています。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>小学生向け、中学生向けの児童館だよりを毎月発行して小・中学校に全校配布するなど、わかりやすい情報提供・広報に努め、地域の子どもが利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。小学生に関しては、運動遊び・製作活動等を定例行事で提供し、育成支援に取り組んでいる。中学生に関しては、スポーツや学習等の日常利用やボランティアの育成に努めているほか、中学校の授業の一環として職場体験、保育体験を受け入れ、乳幼児や小学生との交流を図っている。</p> <p>児童クラブでは、1年生が地域の110番の家を巡ったり、縦割りグループで危険について考え話し合い意見をまとめて発表するなど、安全に関する自己管理能力が身に付けられるように子どもの主体的な取組みを支援している。</p> <p>乳幼児対象の定例行事等により子育てに係る交流の場を提供するほか、区家庭健康課、保育所子育て支援センター、消防署等と連携し、情報提供や相談の場を設けるなど、地域の子育て家庭を支援している。また、日常の遊びの中で小学生と乳幼児の定期的な交流の機会を設けるなど、利用者同士をつなぎ世代間交流に取り組んでいる。広い世代で構成される子育て支援クラブ2グループの活動を支援し、乳幼児親子や小学生を対象とした行事の実施を通して子育て支援の充実に努めており、評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室